

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401483		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム やすらぎ		
所在地	雲仙市吾妻町牛口名378-2		
自己評価作成日	平成 30年 9月 11日	評価結果市町村受理日	平成 30年 11月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 30年 10月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・病院併設なので急変時や事故発生時は、早急な対応と処置がとれる。 ・平日は、リハビリもできるので利用者の介護予防に繋がる。 ・季節毎の行事には、職員のアイデアが活かされている。 ・ホームの装飾品には、職員のアイデアが十分に活かされている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

島原半島の雲仙市吾妻町に位置し、北岸は有明海、南には雲仙を眺める自然豊かな環境のもと、町のかかりつけ医として親しまれる医療法人の3階に当ホームは存在する。敷地内には通所施設や系列のグループホームが整備され、リハビリ専門医による指導が受けられる環境にあり、医療と介護の両面からの支援が可能であり、入居者や家族、職員の安心にも繋がっている。日曜日には近隣の店へ散歩を兼ねた買物に出かける等、町並みに触れることも可能となっている。医療機関が母体であることから職員の勉強会への参加頻度も高く、入居者の体調管理や病気・内服薬に関する知識を持ちながらの支援が展開されている。今月よりホーム運営の規模の縮小があったが、失敗よりも経験を大事にする管理者や職員のもと、現在はそのことを支援の充実に繋げたいと職員一丸となって取り組む姿勢にあり、今後ますます期待の持てる事業所と言える。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 やすらぎⅠ

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ誰でも目につく場所に掲示し、理念の実践に向けて取り組んでいる。	入居者の笑顔と居心地の良い生活の場を目指した理念をもとに、前回評価時より月目標を設定し実践に努められている。目標を掲げる事によって支援の方向性の共有や職員の意識付けにも繋がりが、支援の充実が図られている。今後も反省や振り返りを行いながら次回目標に繋げていく意向にある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などに出かけた際には、近隣の方々と挨拶を交わすよう心掛けている。中学生の福祉体験学習などを受け入れている。	ホームは毎週日曜日を散歩の日とし、近隣商店への買物や保育園児との交流等可能な範囲での外部との接点を心掛けている。但し、自治会への未加入や近隣住民との接点については課題が窺われ、防災上の観点からも更なる取り組みが望まれる。	地域との交流においてホーム単体での関わりに苦慮する面も窺えるが、管理者や職員はグループホームが有する認知症ケアの強みを生かした活動に前向きな姿勢がある。地域住民の在宅介護の負担軽減や地域での仲間づくりの場を提供するなど、今後の活動の広がりに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人への理解や支援の方法など伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組んできた内容を報告し意見をもらいサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、入居者の暮らしぶりや事故報告等の報告があり、運営の透明性が図られている。会議には民生委員や駐在所、地域包括支援センターからの出席があり、多角的な視点での助言や情報交換の場としても活用されている。また、時期に応じた事例を用いた勉強会も併せて行われており、ホームの方針を伝えられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、助言や意見をもらっている。情報交換をし連携に取り組んでいる。	ホームは、運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加があるほか、法令遵守については島原地域広域市町村圏組合へ相談し具体案や改善策を確認されており、行政機関との良好な関係が築かれている。円滑なホーム運営ができるよう不安や課題を迅速に解消する姿勢で関わりを持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心掛けている。どうしても必要の時は、家族に説明し同意を頂き行っている。	ホームは身体拘束廃止委員会の設置があり、委員を中心に具体的な対応策を検討し廃止に向けた取り組みがなされている。やむを得ず使用する際は家族への説明や同意など必要な過程を踏み、安易な使用に繋がらないよう留意している。現在ベッド柵の使用があるが、活動量や睡眠状況などの評価を行いながら将来的に取り除いていく方向での支援が展開されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こらないようにとの意識を持って支援にあたっている。スタッフ間で注意できる環境を心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望・不満・苦情などその都度聞き日々のケアに活かしている。玄関には意見箱を設置している。	入居者家族の高齢化や遠方に住まう家族が多く、各種情報の伝達手段や情報量にも偏りが窺われるが、ホームは状況に応じた方法を選択しながら入居者家族との関係構築に努めている。管理者は、今後家族交流会のような意見交換ができる場で顔が見える関係づくりを行っていきたいとの考えを持っており、更なる関係づくりに意欲的に取り組む意向にある。	現在、電話・面会の際や毎月の事業所便りの発行により入居者の近況報告を行っているが、家族の高齢化や遠方であるなどの様々な事情から面会者や運営推進会議へ参加頂く家族が固定化している現状にある。会議資料の配布などでホームの方針を参加者以外にも伝え、運営推進会議参加への理解を深めるよう今後の取り組みに期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見に耳を傾けるように心がけている。	ホーム職員の採用については法人本部が行っており、今回職員不足の理由から運営の縮小があったが、管理者は日常的に職員や入居者の声を集約し、勤務形態や業務内容をその都度話し合いながら業務改善に向け取り組んでいる。ホームは職員のチームワークもよく、現場では職員それぞれに責任感と役割を担いながら、風通しの良い職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備には努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会に参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会は作れていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを取り早期の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望などにも耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は同じ空間で過ごし穏やかな時間を過ごせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された際には近況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会など来所しやすい雰囲気づくりを心掛けている。外出・外泊などは家族の方に協力して頂けるように努めている。	ホームは、建物の構造上医療的な印象を強く持たれがちだが、家族や知人が気軽に足を運びやすい環境となるよう声掛けや家庭的な雰囲気を大事にされている。法人の入院棟や通所を利用している方のホームへの入居も多く、入居間もない入居者は通所へ足を運ぶなどし、これまでの交友関係を急に途切れさせることなくホームでの暮らしへ緩やかに移行できるような支援を展開されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性には十分に考慮し支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度化し退所されても必要に応じ本人・ご家族の経過をフォローし相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を第一に考え支援にあたっている。	職員は入居者それぞれが持つこだわりや大切にしてきたことの理解に努め、その時その場での入居者の表情や発する言葉の意味を共通理解し、その方の思いに寄り添うケアに努めている。また、個別ケアを重視しており、介助のポイントを職員間で話し合いながら日中の過ごし方や生活習慣等を大事にした支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族から聞き取るようにしている。入所後も日常の会話の中だ聞き取るように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に応じた生活支援を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意見を聞き介護計画に活かしている。	職員は、入居者との関わりや家族の意向をケアプラン立案毎に確認しながら、その方に応じた対応方法を検討し実践に繋げている。また、入居者へ関わる姿勢や職員の意見を積極的にケアプランの中に取り入れながら、その方らしい暮らしを継続できるよう支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護計画・支援経過を記録している。全職員が情報を共有できるように介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援を心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員などの協力を得ながら地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりに主治医がおり適切な医療が受けられている。事業所以外の主治医の場合は家族付き添いでの受信となっている。	ホームは、母体が医療機関であることから入居者の小さな体調変化や顔色に注意し、医療連携看護師やかかりつけ医と連携を図りながら細目な体調管理に努めている。入居者が入院した際には洗濯等の支援を行い本人との関わりを持ち、声を掛け励ましながら早期退院へ繋がるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回医療連携看護師によるバイタルチェックが行われている。入居者の状態を細かく報告し処置や指導などを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合などは看護サマリーを渡し情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院併設となっている為重度化した場合にはDr指示にて入院となる。重度化した場合については家族にも十分な説明を行っている。	看取りは母体で行う方針にあり、ホームでは可能な限りその方の嚥下状態に応じた食事形態で食事を準備し、体力や経口摂取の状況を報告しながら、家族の意向や医師の指示が出されるまでその方に応じた支援に努めている。入居者の体調に不安がある際には家族の宿泊も可能であり、本人や家族の不安に寄り添いながらその方にとって安心して過ごせるよう支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2～3回避難訓練を行っている。	避難訓練は法人全体で年3回実施され、ホーム職員も持ち回りで訓練に参加しておりその都度手順の確認がなされている。現在、ホームが建物の3階に位置していることから入居者の身体的な負担を考慮し全入居者参加型の訓練は実施されていないが、職員は階下に設定された一時避難場所を意識付けることやホーム独自の自主訓練を繰り返しながら、その場その時に応じた避難誘導方法が習得できるよう有事の際の迅速な対応に備えられている。	現在、法人全体の避難訓練の実施記録は整備されているが、ホーム独自の訓練記録はなく、参加職員が訓練時に受けた指導や助言、また参加後の振り返り等を他職員へ伝達できていない状況にある。次回訓練時に活かされる記録の整備やハザードマップの掲示、また地域を含む消防団への訓練参加の呼びかけなど、今後、より実効性の高い訓練の実施に期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損なわない対応を心掛けて いる。	法人では、年2回ほど職員の仕事に対する積 極性や姿勢等の自己評価の機会を設けられ ており、入居者に関わる際の立ち居振る舞い や言葉遣いへの意識付けがなされている。ま た、年1回法人内で接遇マナーに関する研修 が行われるほか、認知症への理解を深める マニュアルを整備し、高圧的な態度で入居者 と関わることがないよう職員間で注意ながら 支援に取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	入居者に合わせた声掛けを行い十分に話を 聞き自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の流れは決まっているが、本 人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	2か月に一回理容師に訪問してもらい散髪を 行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	入居者と職員は同じテーブルを囲み食事を 取っている。季節の物を取り入れるなど工夫 している。	ホーム台所で手作りされる献立によって入居 者は嗅覚から食欲を感じ取り、音や匂いに誘 われて食卓に歩み寄る環境が整えられてい る。座った先に食器の後片付け風景を眺めた 入居者は自分ができる範囲の作業を手伝 い、五感でその方に働きかけながら自分にで きる役割を担い生活できるよう支援に努めて いる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	食事摂取量は毎食後チェックしている。食事 量の少ない方には栄養剤を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	毎食後口腔ケアの声掛け・介助を行ってい る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し時間を見計らって誘導しトイレでの排泄を心掛けている。	職員は、入居者の日課や生活リズムに合わせて自分でトイレに行く意欲を促すような声掛けの工夫をされており、失敗しない排泄ケアの実践に取り組まれている。また、出来るだけオムツに頼らないよう入居者毎の排泄パターンを職員間で共有しながら、羞恥心に配慮した対応に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を取り入れたり、適度に身体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴してもらっている。入浴前には必ずバイタルチェックを行っている。	職員は、入浴頻度や入浴時間帯をできるだけ入居者それぞれのタイミングに合わせ、肌の露出は他人の目や手が入って欲しくない領域であることを理解した支援に努めている。できるだけ自分のできる力を大事にしながら、介助が必要な部分を見極め職員間で対応方法を統一しながら支援している。入居者に応じて湯温や入浴時間など好みに合わせて対応し、できるだけ寛いで入浴して頂きたいとの思いで支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し生活リズムを整えるように努めている。昼食後1時間程度の午睡を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬歴表をファイルに整理し全職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更などがあつた場合には細かく記録するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭きなどお願いできる仕事は手伝ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物には時々ではあるが出かけている。自宅などへの外出は家族の協力を得て外出できるようにしている。	以前は職員の勤務形態の事情からホーム全体での外出行事が少ないという悩みを抱えていたが、毎週日曜日を散歩の日と設定しホーム近隣に出掛け、気分転換を図れるよう努められている。また、行事で外出した際には参加している入居者の自宅周辺を経由し、場所の説明をしながら懐かしい風景に触れて頂き、その方の思いに添った支援となるよう取り組まれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には所持しないようにしているが、管理ができる方は少額ではあるが所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けたり、手紙を出すなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁飾りをするなどして居心地の良い空間作りに努めている。	ホームは入院棟だった名残から医療的な雰囲気も窺われるが、季節の花や調度品を設置しながら家庭的な雰囲気づくりに努め、入居者がそれぞれお気に入りの場所で寛いで過ごすことができるよう努めている。共用空間にはテーブル席と畳の空間を準備し、心地良い居場所を入居者自ら選びながら、そこで過ごす者同士で同じ時間を共有し、人との繋がりを意識した関わりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダにベンチを置いたり、リビングにはソファを置くなどして思い思いに過ごせる空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物を活かして居心地良く過ごせるようにしている。	ホームは、入居の際にその方にとって馴染みのある手回り品や調度品などの持ち込みを家族へ依頼し協力を得て、本人の生活動線を意識しながら不安にならないような部屋づくりに努めている。職員は居室が入居者本人の空間であることを意識し、写真や思い出の品を飾りその方の思いを大事にした空間づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に応じた環境作りに努めている。		